

「上腹部開腹手術における術中の体温低下と術前の脂肪量との関係―術前に撮影された CT を用いた後ろ向き研究―」

へのご協力をお願い

―平成 22 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日までに当科において上腹部開腹手術（胃切除術、開腹胆嚢摘出術、横行結腸切除術、右半結腸切除術、肝部分切除術）を受けられた方へ―

研究機関名 東京歯科大学市川総合病院、東邦大学
責任研究者 東京歯科大学市川総合病院 麻酔科 助教 加藤崇央
分担研究者 東京歯科大学市川総合病院 麻酔科 教授 小坂橋俊哉
東邦大学 麻酔科学講座 教授 落合亮一

1. 研究の意義と目的

全身麻酔を行うと患者さまの体温が下がります。中でも、上腹部開腹手術（幽門側胃切除術、胃全摘術、開腹胆嚢摘出術、横行結腸切除術）は体温が下がりやすい手術です。体温が下がると、①麻酔からさめたときに震えや寒気が起こる、②出血量が増え、輸血が必要になる可能性がある、③手術後に不整脈や心筋梗塞などが起こる、④傷口の感染が起きやすくなる、など数々の合併症が起こりやすくなることが知られています。この体温低下を防ぐため、手術室スタッフは常に多大な努力を行っています。近年の技術の進歩により手術中に非常に有効な加温を行うことができる装置（強制温風式加温装置：布団乾燥機のようなものを体につけて温風を送り込み温める装置です。）が開発され、現在は可能な限りこの装置を使用し、患者様の加温を行っています。その結果、体温を一定に保てる患者様が増えましたが、一方で体温が上昇してしまう患者様や体温低下を防げない患者様もおられます。以前、我々はこの個人差は体型（やせ体型～ふくよかな体型）に関係あるのではないかと考え、Body Mass Index (BMI：体重(kg)/身長(m)²) と体温低下の度合との関連を調べました。その結果、BMI が低いやせ体型の患者さまでは体温が大きく低下し、BMI が 25kg/m² の患者さまで体温が最も下がりにくく、BMI の高いふくよかな体型の方では体温が低下することが分かりました。この原因として、我々は、ふくよかな体型の患者さまでは脂肪が加温装置の妨げとなるため体温低下が起こると仮説を立てました。今回、この仮説を明らかにするため、手術を受けられる直前に撮影された CT 画像を用いて検討を行います。この関係が明らかになると、手術開始前に最も適した加温方法を決定することができるようになり、多くの患者様の利益につながっていくと考えております。

2. 研究の方法

1) 研究対象：

東京歯科大学市川総合病院外科にて診療を受けられていた患者様で、平成 22 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日までに当科において上腹部開腹手術（胃切除術、開腹胆嚢摘出術、横行結腸切除術、右半結腸切除術、肝部分切除術）を受けられた方を対象とします。約 250 名の方の記録を調査させていただく予定です。

2) 研究期間：

（倫理委員会承認日）～平成 26 年 3 月 31 日

3) 研究方法：

上記1)の研究対象の患者様で、研究者が診療情報をもとに手術を受けられる直前に撮影されたCT画像からデータを選び、SSD3D®（フィリップス社）というソフトウェアを用い、膺の高さでの横断面での皮下脂肪量・内臓脂肪量を算出し、コンピュータ分析を行い、体温低下との関係を調べます。

4) 調査票等：

研究資料には麻酔記録・カルテ・撮影画像から以下の情報を抽出し使用させていただきますが、あなたの個人情報には削除し匿名化し、個人情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

- ・年齢、性別、身長、体重、体温データ、
- ・手術の術式、手術直前のCT画像データ

5) 情報の保護：

調査情報は東京歯科大学市川総合病院麻酔科・東邦大学麻酔科学講座内で厳重に取り扱います。電子情報の場合はパスワードで制御されたコンピュータに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。研究終了後3年が経過した時点でこれらの情報は完全に削除します。

調査結果は個人を特定できない形で関連の学会および論文にて発表する予定です。

当研究において利益相反はありません。

この研究にご質問等がありましたら下記までお問い合わせ下さい。御自身や御家族の情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、平成26年3月31日までの間に下記の連絡先までお申出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様には不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

東京歯科大学市川総合病院 麻酔科

氏名：加藤崇央

電話：047-322-0151 FAX：047-324-8588